

投票できるって、
大人と認められた
ことなんだよ。

選挙権を持つ君へ

新聞で考える未来

私たちが世の中を
より良くしていけるんですね。

齋藤 孝

監修・齋藤 孝
発行・日本新聞協会

吉本実憂

齋藤 孝

(教育学者)



吉本実憂

(女優)

2016年から、選挙権年齢が「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げられることになりました。18、19歳の約240万人が、新たに投票できる権利を手に入れます。

齋藤孝先生が「選挙」について吉本実憂さんの質問に答えてくれました。

18歳以上に 選挙権が拡大

私もいよいよ選挙に行けるようになるんですね。

2016年から18歳以上の人なら誰でも、選挙で投票できるようになりました。

でも、まだピンと来ません。私が投票してもいいのかな?という感じです。

日本では18歳なんてまだ早いと言っている人が多いんです。でも、世界の約9割の国では、18歳になると選挙権を持つんですよ。

そうなんです。いつまでに18歳になっていれば投票できるのですか?

投票日の翌日までに18歳になる人で選挙人名簿に登録されていれば、投票できます。投票所入場券^{※1}が事前に送られてきますよ。期日前投票^{※2}もできます。

初めて受け取る時は緊張しそうですね。

[右] 齋藤 孝 (さいとう たかし)

1960年、静岡市生まれ。東京大学文学部卒。明治大学文学部教授。専門は教育学、身体論、コミュニケーション論。著書『声に出して読みたい日本語』(草思社、2001年)がベストセラーになり日本語ブームをつくった。

[左] 吉本実憂 (よしもと みゆ)

1996年、北九州市生まれ。「第13回全日本国民的美少女コンテスト」でグランプリを獲得。「アムホーム」「表参道高校合唱部!」「5→9~私に恋したお坊さん~」など話題のドラマに出演。映画「罪の余白」でヒロインをつとめた。NHK・Eテレ「東北発☆未来塾」でナレーションを担当している。



※1 投票所入場券

世帯ごとに市区町村の選挙管理委員会から送られてくる。入場券を持って投票所に行くと、選挙人名簿と照合された後、投票することができる。紛失したり忘れたりしても本人確認してもらえば投票可能。

※2 期日前投票

投票日の前日までに投票できる制度。各市区町村に期日前投票所が設置され、投票日に予定がある人も投票できる。



私たちが世の中を
変えられるんですね！



だからわくわく、
楽しみにして！

投票で未来は変わる

- 政治に興味を持つ、投票に行く、これを繰り返して、**民主主義**が少しずつ形づくられていくんだよね。
- **みんなが投票に行ったら、将来について真剣に考えないといけないですね。**
- そうそう。ほんとうに投票で未来は変わるんだよ。実際に、選挙の結果で政策が変わることもある。
- **私たちの投じる一票は重要なんですね。**
- みんな「日本」という同じ船に乗っているんだけど、向かう先は、ほくたちが決めるんだってことが実感できるよ。
- **私たちが世の中を、より良い方向に変えられるんですね。**
- そう。だから選挙権を持つことにわくわくして、投票を楽しみにしてほしいんだ。

【※】民主主義
国民の意思に基づき政治を行う体制。国民が選んだ代表者（議員）で構成する議会を通じて、民主政治を実現することを議会制民主主義という。

若者の声を生かす

- どうして選挙権が拡大したのですか？
- より若い人に政治参加してもらいたいからだよ。日本はすごい高齢化社会だから、投票できる若者を増やさないと、国会や地方議会が高齢者のための意見ばかりになってしまふ。
- **中高年の方は選挙にも熱心なイメージです。**
- 確かにそう。だから選挙権を拡大することによって、若い世代に政治に関心を持ってもらい、その声を生かそうという意図があるんです。18歳からとなると意識も高まるよね。
- **選挙に行くことをどう考えたらいいのか、私だけでなく、多くの若者が分からないと思うんです。**
- まずは投票することに、わくわくしてほしいなあ。投票できるって、大人と認められたってことなんだよ。
- **一足早く大人と認めていただけるのは、すごくうれしいです。**

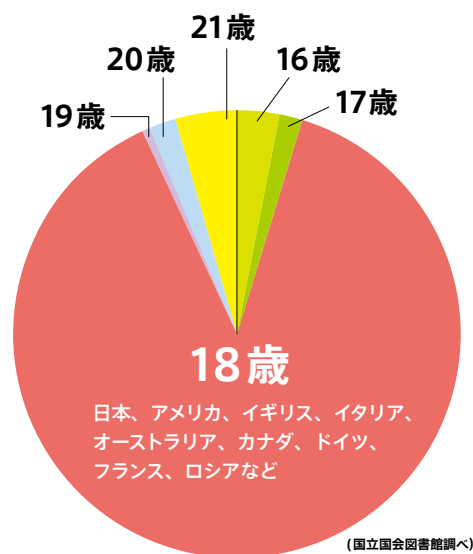


世界では「18歳以上」が主流

実は、世界の約9割の国・地域で、18歳までに選挙権が認められています。海外では、若いうちから選挙権を与えることで、政治への関心が高まり、政治参加にも積極的になると考えられているからです。

ブラジルやオーストリアではさらに早く16歳から選挙権を持ちます。先進国が加盟する経済協力開発機構(OECD)の34か国中、18歳までに選挙権を与えていない国は、これまで日本と韓国だけでした。18歳から16歳への引き下げを検討している国もあり、海外では10代の若者に選挙権を与えることが主流になっています。

世界各国・地域の選挙権年齢



約9割の国・地域で
18歳までに選挙権



若い世代の意見を
政治に反映



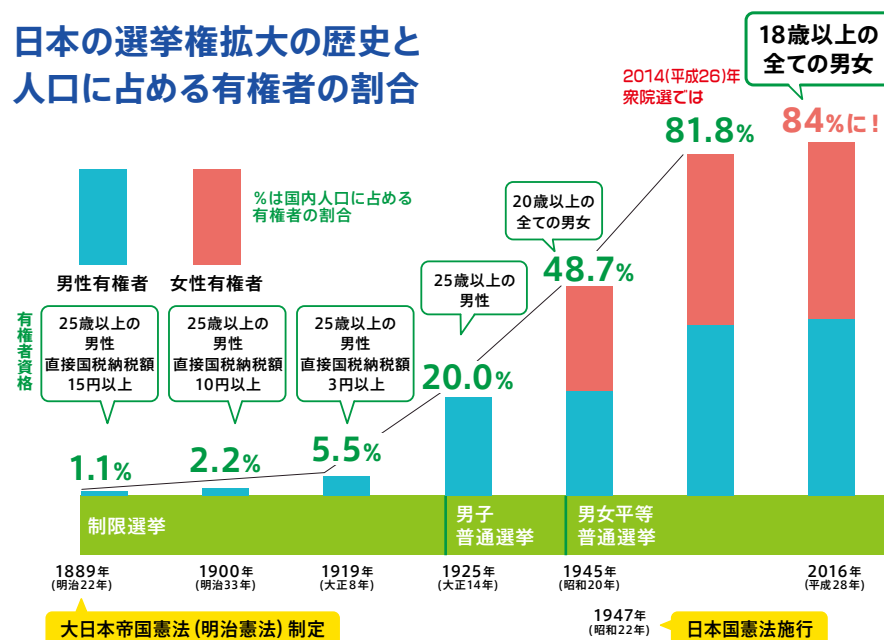
70年ぶりの選挙権拡大!

選挙とは、決まった年齢になった人なら誰でも、性別や信条、財産などにかかわらず、自分たちの代表を投票で選べる制度です。

日本では、1889(明治22)年に衆議院議員の選挙制度ができましたが、税金をたくさん納めている25歳以上の男性しか投票ができませんでした。今では考えられないことですが、女性には選挙権が与えられていなかったのです。

選挙権の拡大を求めて、各地でさまざまな運動が起こりましたが、20歳以上の全ての男女に選挙権が与えられるのは、第2次世界大戦後の1945(昭和20)年のことです。有権者資格はこうした歴史をたどり、70年ぶりの今回の改正によって「18歳以上」に引き下げられたことを理解しておきましょう。

日本の選挙権拡大の歴史と人口に占める有権者の割合



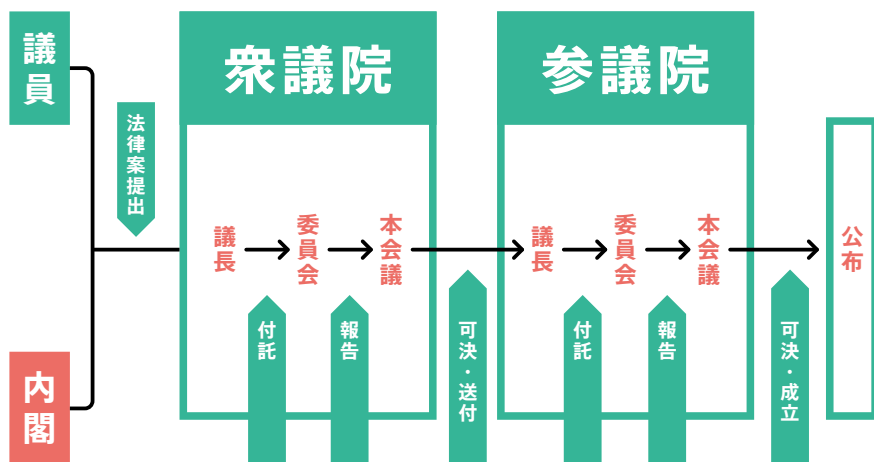
国会の仕組み

国会は国民の意思を最も代表するもので、法律を制定する権限は国会だけに与えられています。

日本では、衆議院と参議院の二院制がとられ、原則的に両院の議決が一致したときに国会の意思が成立します。ただし、条約の承認、法律案や予算の議決、内閣総理大臣の指名では、衆議院の優越が定められています。

内閣や国会議員から提出された法律案は、関係の委員会で審議され、本会議で議決されます。内閣から提出された予算を審議することも国会の大切な仕事で、税金の使い方をめぐる審議の結果は私たちの暮らしに大きくかわることから、各党の議論も白熱します。

法律ができるまで（衆議院先議の例）



※参議院が先に審議することもある。

衆議院と参議院の違い

衆議院と参議院では議員の任期や定数、選挙制度などが異なります。衆議院は任期が4年で参議院より短く、また、内閣総理大臣が任期満了前に解散することもできるので、民意がより反映されやすい議会となります。一方で、参議院には解散がなく、任期が6年と長いいため、長期的な視野で審議を行うことができます。

衆議院議員選挙は、小選挙区選挙では候補者名、比例代表選挙では政党名で投票します。参議院議員選挙は、選挙区選挙では候補者名、比例代表選挙では候補者名または政党名で投票します。

	衆議院	参議院
定数	475人	242人
任期	4年(解散がある)	6年(3年ごとに半数改選、解散はない)
被選挙権 (立候補する権利)	満25歳以上	満30歳以上
選挙制度	小選挙区比例代表並立制	選挙区制 非拘束名簿式比例代表制
特徴	その時々を民意を反映	慎重な審議を確保

※定数、選挙制度は2016年3月現在。

二院制

一方の議院で決めたことを、もう一方の議院で検討することで、国民の多様な意見を広く反映させ、慎重な審議ができる。また、一方の行き過ぎを抑制し、不十分なところを補うこともできる。多くの民主主義国では、二院制が採用されている。



地方選挙と最高裁判所裁判官国民審査

私たちが選挙で選ぶのは、国会議員だけではなく、都道府県や市区町村の首長、議会の議員も投票によって選ばれます。

地方自治では、首長と議会が互いの仕事を分け合って、互いにチェックしています。首長、議員は住民によってそれぞれ直接選ばれる制度になっています。

このほか、最高裁判所裁判官の国民審査があります。これは、最高裁判所の裁判官としてふさわしい人物かどうか、国民が判断する制度で、衆議院議員総選挙の際に行われます。ふさわしくないと思う人物に「×」をつけて投票します。

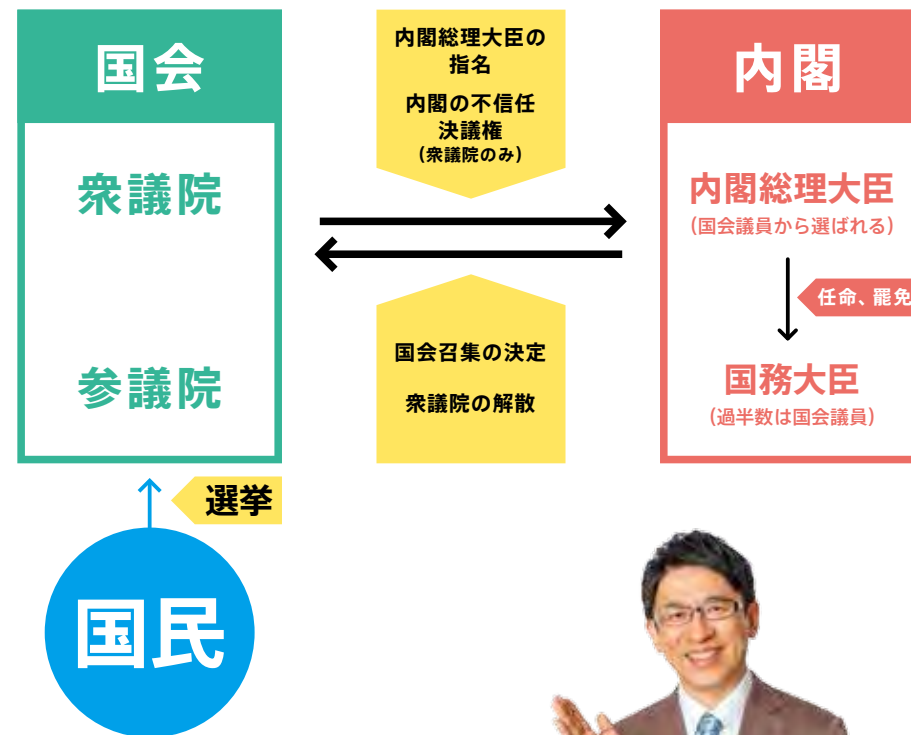
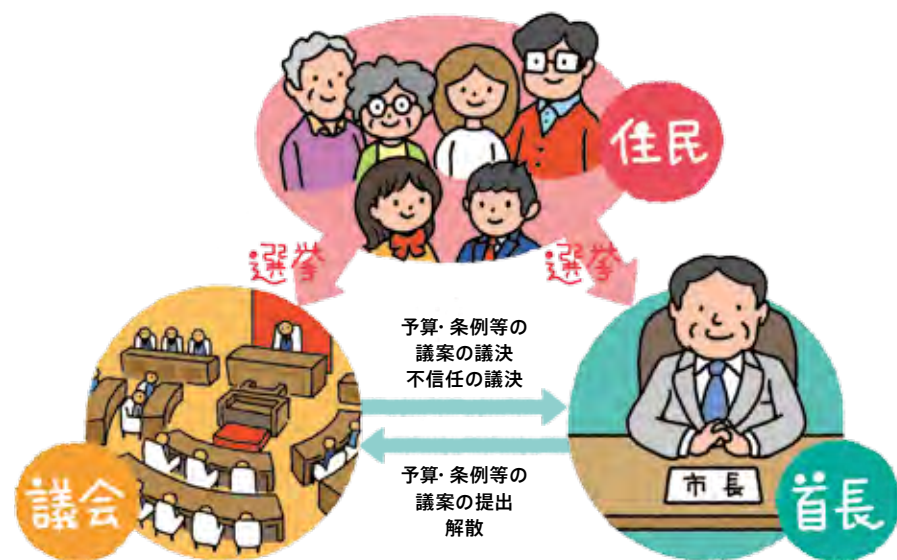
内閣と国会の関係

内閣は、内閣総理大臣と国务大臣で組織されます。内閣総理大臣は、国会議員の中から国会の議決により指名されます。国务大臣は内閣総理大臣が任命しますが、その過半数は国会議員でなければなりません。

内閣には、法律の執行や外交関係の処理、予算の作成など重要な権限があります。この権限の行使について内閣は、国民の意思を代表する国会に対して責任を負っており、衆議院が内閣に対して不信任決議を行った場合、内閣は総辞職するか衆議院を解散しなければなりません。

このように、内閣は国会に信任されていなければ行政を行えないのです。こうした国会と内閣の関係を議院内閣制と言います。

地方自治体と住民の関係





新聞は投票の

齋藤 孝

強い味方です

吉本実憂



先生は、候補者や政党といった投票先を、どうやって決めていらっしゃるんですか？

ほくは、まわりの人たちと政治について話しますよ。そうしているうちに自分の考えがまとまってくる。

そうなんです。でも最初は何を話していいのか、分かりません。

ほくはまず、いろいろと情報を集めます。新聞を読んだり、テレビを見て、インターネットで調べます。世の中に興味を持つことが第一歩ですから。

そうすると、疑問もたくさんわいてきそうですね。そうそう。そうしたら、もっと調べてもいいし、人に聞いてもいい。そのうちに自分の意見が自然と出てくるんだよ。女優の仕事でも自分の意見を言うんですよ？

そうですね。やっぱり作品が良くなるためには、自分の意見が必要ですね。監督さんや共演者の方々にも、自分の意見を言わせていただくことがあります。

政治も同じことなんだ。もっといい社会になってほしいと思うと、自然と自分の意見が出てくるんだよ。意見と言う勇氣だって自然とわいてくるんだ。



正確で信頼性ある新聞記事を掲載

● 気になることがあると、よくスマートフォンで調べますが、ネットのニュースと新聞に載っている記事はどう違うのですか？

● ネットのニュースは、もともと新聞社が発信した記事を短くして掲載しているものが多いんだ。

● そうなんです。じゃあ、選挙のために読むならやっぱり新聞の方がいいですね。

● 新聞の方がより詳しいし、分かりやすいよ。ネットの情報は速報性があるけれど、新聞記事はニュースの背景などを多角的に分析しています。ネット情報にはあやしいものもあるけど、取材のプロである新聞記者が書いた記事には基本的な信頼性があります。

● **新聞ってすごいんですね。**

● みんなが新聞から正確で多様な情報を得て、納得して選挙で投票する。民主主義がきちんと機能するためには、質の高い情報を得られるようにしておかないといけないね。

新聞のある暮らしが
とても大事なんです。



私の家でも
とっています。
もっと読んでみますね。



一覧性のある新聞を身近に

● **新聞のいちばんの特徴ってなんでしょうが。**

● 一覧性だね。広い紙面に記事がバーッと展開され、大事な記事が一目で分かる。記事と記事が関連付けられている。読みやすいし、どんどん興味が広がる。

● **でもなんだか難しそうで……。**

● とにかく新聞を身近に置いておくことだよ。身近であれば必ず読むようになるし、「新聞がある暮らし」を送ることがとても大事なんです。

● **おすすめの読み方ってありますか？**

● まずは新聞をめくって、興味のある記事や見出しを読んでもみればいい。あと学生に教えているのは、切り抜きだよ。気になった記事を切り抜き、ノートに左ページに貼り、右ページに自分のコメントを書く。その記事への理解が深まるようになる。

● **記事の切り抜きは、私もやりました。実は、私の家では2紙とっています。もっと読んでみますね。**

● ほかにも家にも仕事場にも必ずそばに新聞を置いているよ。休刊日は仕事もはかどらない……なんてね(笑)。

情報をどう集めるか？

政党や候補者が発信する情報をチェックする



まず、選挙の際には、候補者や政党が直接発信する情報をチェックする必要があります。

選挙公報は、候補者の名前や写真、公約がまとめられた文書で、各家庭に配布されます。新聞と一緒に配布されることも多いです。

また、政見放送はテレビやラジオを通じて、候補者が立候補の動機や公約を語る番組です。

マニフェストとは政党が選挙公約をまとめたものです。政策の実施時期や、その政策にどれくらいお金がかかるかなども記されています。冊子にして配られるほか、政党のウェブサイトでも読むことができます。

そのほかにも政党や候補者のウェブサイトには詳しい情報が載っています。ただ、候補者が発信する情報だけでは一方的で不十分かもしれません。

STEP 1 新聞で視野を広げよう

選挙の争点示し客観分析

選挙の際に欠かせないメディアが新聞です。新聞は、選挙の「争点」を示して政党や候補者を比較し、主張の違いなどを解説しています。各党が前回の選挙で何を主張し、それがどのくらい実現できたかを検証したり、候補者の経歴や公約、人物像も一覧できるようにしたりしています。

世論調査や取材に基づく情勢分析、選挙結果の分析など、客観的な立場で伝えられているのも特徴です。政治の専門家や各界著名人の多様な意見も紹介しています。これらの記事は、政治面を中心に掲載されます。選挙については、連載記事として社会面や地域面などでも報じています。具体的な事例を交え、分かりやすく伝えているので、連載を探すのもおすすめです。

新聞は、選挙を多様な視点・手法で解説、分析することで、読む人に広い視野で考えるヒントを提供しています。ふだんから新聞で政治の動きを知ることにより理解が深まります。

面建て

記事の内容によって、総合、政治、経済、国際、社会、文化、スポーツ、地域など掲載ページが決まっています

トップ

その紙面の中で最も重要と判断した記事

見出し

ニュースの内容を一言で伝える。大事なニュースほど見出しも大きい。忙しいときは見出しを見るだけで世の中のことが分かります

題字(題号)

新聞の名前

インデックス

注目記事と掲載ページを紹介する欄

記事

新聞は大きなことから書かれています。大きなニュースの場合は、前文(リード)がついています

コラム

旬の話題を扱った文章。筆者の意見や感想が盛り込まれることが多いです

社説

新聞社が展開する主張。テーマごとの概要がバランスよく過不足ない情報としてまとまっています



選挙権を持つ以上、社会を知ることが大切です。新聞はあらゆる年代の人たちが理解できるように書かれており、内容も政治・経済から生活・文化、スポーツ、エンターテインメントまでさまざまです。新聞で、世の中を効率良く知ることができます。最初は、難しく感じるかもしれませんが、日常の中に新聞を置いてみてください。そして関心のある記事や見出しを拾い読みしましょう。読む時間も、読む記

事も違うかもしれませんが、一つのメディアを家族で共有することは、コミュニケーションの促進につながります。できれば10代のうちに、新聞のあるライフスタイルを確立していくことが大切です。メディアから適切な情報を得る力がつき、社会に対する自分の意見を持つ大人への第一歩となるからです。初めての選挙を経験するこの機会に、ぜひ新聞との付き合い方を考えてみてください。

STEP 3 新聞とうまく付き合う方法

見出しを拾い読みしよう



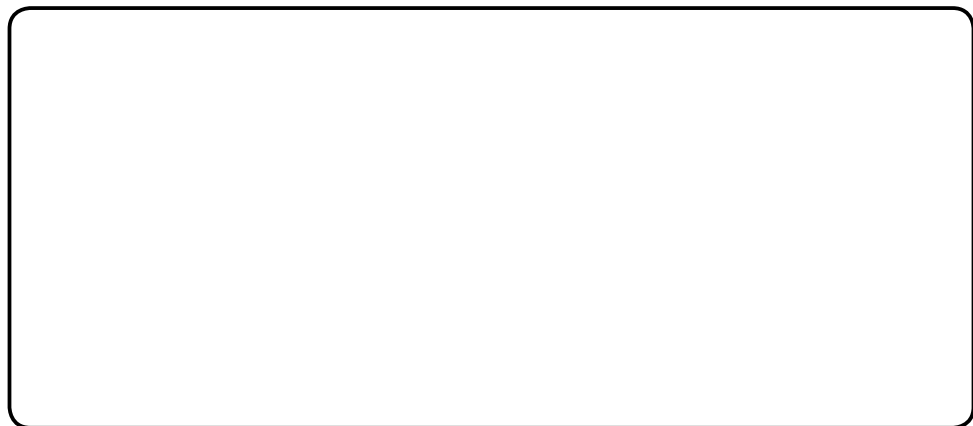
新聞は、毎日起きる国内外の事件や出来事を正確かつスピーディーに伝えているほか、「社説」や「コラム」などでは、社会や読者にさまざまな問題提起をしています。一つのテーマについて、さまざまな観点から情報を得ることは、とても大事です。そのために新聞を読むことをおすすめします。自分の考えをまとめるのに役立つだけでなく、自分とは違う立場の人の意見を知ることができるからです。

複数の新聞を読み比べると、より効果的です。関心のある新聞記事を切り抜いてみてください。それをノートにまとめていけば、気になるテーマの流れも分かりやすくなります。選挙のときだけでなく、受験勉強や就職活動にも役立ちます。また、新聞は世界中のニュースとその解説記事を毎日たくさん掲載しています。日本のニュースを世界とつなげて考えることによって、視野がさらに広がります。

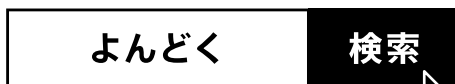
STEP 2 多様な観点から情報を得よう

各紙読み比べると効果的

新聞界は学校・家庭などで新聞を教材として活用する
NIE（Newspaper in Education、エヌ・アイ・イー）活動を
推進しています。



パソコン・スマートフォン版はこちらからどうぞ！



一般社団法人 **日本新聞協会** 発行

〒100-8543 東京都千代田区内幸町 2-2-1 日本プレスセンタービル 7階